

編集月旦 2016年11・12月合併号(年鑑)

★web「月刊丈風」(2012年5月～)50号特集として、これまでの経緯をひとたび整理して、未来へと繋ぐ「ニッポン発二世紀オリジナル～鉾脈としての日本長寿社会～」をまとめました。「高齢社会対策基本法」(1995年)・「高齢社会対策大綱」(1996年)から20年の検証をおこないつつ、これからの20年を見据えての論考です。わが国の高齢者のだれもがどこでも敬意をうけて安心して暮らすことができ、その先行モデルとしての姿をみて、途上国の高齢者が元気づけられることを想定しています。

★新たな20年にむかって、開かれた持続可能な経済社会を達成するには、4人にひとり3400万人という「社会的ボリューム」を得たわが国の高齢者(65歳以上)層が、「高齢世代」として潜在力を発揮して、次のような課題の解決に取り組むこととなります。

①「改定大綱」(2012年)が指摘する「人生65年時代」から「人生90年時代」への高齢期25年の延伸をわがこととし、晩年の人生への気力を萎縮(デフレーション)させる「引退余生」でなく、「現役長生」による前向きな高齢者意識を醸成する。

② これまでの高齢化対応は「高齢者対策」(介護・医療・福祉・年金など)が中心だったが、これからは史上初の「高齢世代」として登場して、高齢者のための「モノ」の創出、「居場所・通い場所」の設置、互助のしくみをつくって「高齢社会」を形成する。

③ 高齢期に必要な知識・技能を習得する地域生涯大学校(中学校区単位で「新地域支援事業」の第二層)を設置して、「人生90年」を地域で暮らすために必要な知識や技能を学び、生涯の学友を得る。高齢人材として特性を活かした「まちづくり」にも貢献する。

④ 性急な「世代交代」ではなく「世代交流」を通じて課題を共有し、青少年(成長力)・中年(成熟力)・高年(円熟力)を発揮して、「三世代平等型社会＝長寿社会」をめざす。

⑤ 「アジアの共生」(モノの豊かさの共有)のために生じた「日本の途上国化」(企業の非正規社員や暮らしの百均製品化など)を乗り越えて、わが国の高齢者層の生活感性に見合った優れたモノ・サービスを創出して、「高齢化経済」(エイジノミクス)を成し遂げる。

★上の論考をしあげて、みなさまにお送りしはじめた11月6日に、ふとしたきっかけで愛用のパソコンがウイルスに感染して、すべてのワード文書\*.docファイルが\*.thorファイルに書きかえられてしまいました。外部に感染しないためそれ以後は「丈風9・10月合併号」を送れなくなりました。技術を悪用する技術者の存在に暗然とする思いです。☆おかねを要求するランサムウェア型ウイルスで、加害者の要求に屈するわけにはまいりません。が、修復するための技術料としての出費を覚悟せざるをえず、早急の修復と「丈風編集システム」再構築のために、有志のみなさまのご支援をお願いいたします。

三菱東京UFJ銀行築地支店 普通口座 0937485

丈人丈風の会(ジョウジンジョウフウノカイ)

★一人ひとりが長寿を喜べる「日本長寿社会」の達成とアジアに住むだれもが等しく豊かさを享受できる「アジアの共生」は、ふたつながら平和の証であり、高齢者の課題であり、本誌の目標です。(編集人 記)

